

サイクリング環境の向上と情報発信による観光立県の推進方針(原案)

山形県観光文化スポーツ部
観光立県推進課

本県におけるサイクルツーリズムに関する取組み

○おもてなし山形県観光計画(計画期間:H27年4月からR1年3月)

5つのメインテーマ(重点推進テーマ)

- ・精神文化ツーリズム
- ・食・温泉ツーリズム
- ・山岳・森林ツーリズム
- ・産業ツーリズム
- ・スポーツツーリズム

○おもてなし山形県観光計画(第二次)(計画期間:R2年4月からR7年3月)

リーディングプロジェクト(集中・重点・加速化して取り組む施策)

- ・ICT等を活用したインバウンド拡大の加速化
- ・稼ぐ観光地域づくりによる地域活性化
- ・各種ツーリズムの推進(精神文化、歴史、美食・美酒、温泉、山岳・森林、産業、スポーツ、伝統文化、カルチャー等)

○スポーツツーリズム戦略的促進事業

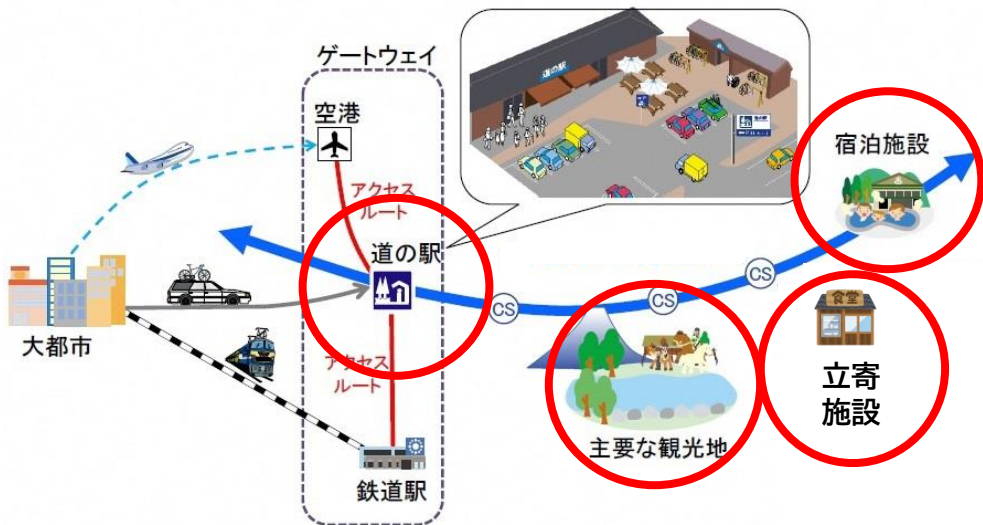
H29年度:スポーツツーリズム(サイクリング・マラソン)のモニター調査・提言

H30年度:福島県・新潟県に跨るサイクリングモデルコースの造成

H31年度:モデルコースのブラッシュアップ及び情報発信、旅行商品の造成

令和2年度:サイクリストの受入体制整備のためのセミナーの開催等

施策の方向性①:サイクリストを受け入れるための機運を醸成し、受入環境の整備を推進



<重点課題>

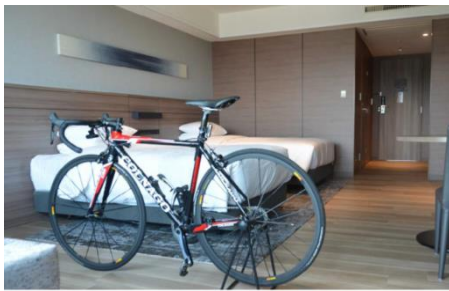
- ・多様な交通手段に対応したゲートウェイが整備されていること
- ・サイクリストが安心して宿泊可能な環境
- ・いつでも休憩できる環境を備えていること
- ・自転車のトラブルに対応できる環境を備えていること



重点課題の解決のためには、道の駅等のゲートウェイやルート沿いの宿泊施設や立寄施設等の民間事業者を中心とした受入環境整備の機運醸成が必要



ゲートウェイでの、駐輪ラック、ロッカー、観光案内等の設備整備



宿泊施設に自転車をもち込める



民間施設を活用した休憩環境



自転車トラブルに対応する民間サービス

施策の方向性②: 県の魅力を活かしたサイクルツーリズムに関する情報を発信



ルート情報、グルメ、宿泊等の情報や、SNSによる投稿など、ポータルサイトとして必要な情報が一元的に得られるサイトが必要。
(上図:「四国一周1,000kmルート」の事例)

<重点課題>
外国人を含めたサイクリスト誰もがどこでも容易に情報が得られる環境を備えること



広域的なサイクリングモデルルートの設定を契機として、本ルートを巡るサイクルツーリズムの磨き上げを行うとともに、サイクリストの誘客を促進するための情報提供が必要

受入環境整備の機運醸成と魅力を活かした情報発信を両輪とした取組みの推進

民間企業を中心とした受入環境整備の機運醸成の取組みと、サイクリストの誘客を促進する情報発信の取組みを両輪として進めることで、本県におけるサイクルツーリズムの魅力向上を図り、サイクリストの誘客を促進する好循環を生み出す。

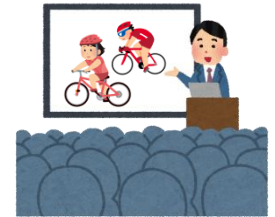


今後の取組みについて

①サイクリストを受け入れるための機運を醸成し、受入環境の整備を推進
受入環境の対応ポイントや参考となる事例についての情報発信やゲートウェイ
でのサイクルラック等の施設整備を支援。

(想定する取組み)

- ・宿泊施設等を対象とした研修会等による受入環境向上のための情報発信
- ・道の駅を対象とした受入環境整備に対する支援(県土整備部)



②本県の魅力を活かしたサイクルツーリズムに関する情報発信
今年度に全面刷新を行う県観光ポータルサイトを中心に、ルート沿いの
観光資源と受入環境の情報を織り交ぜ、本県サイクルツーリズムの魅力発信。

(想定する取組み)

- ・モデルルートを活用したサイクルツーリズム特集記事などによる魅力発信
- ・ビューポイント、サポート施設等を記載したサイクリングマップの作成



③サイクリングイベント開催に必要な行政手続きの円滑化を推進(県土整備部・県警)

(想定する取組み)

- ・申請上のポイントを県のホームページに掲載するなど、各種許可申請の
手続き効率化を進める



4 ナショナルサイクルルートの指定要件



■ ナショナルサイクルルートの指定要件の観点と考え方

- 指定要件については、ハード・ソフト両面から一定の水準を満たす環境が必要であることに加え、それらの魅力的な環境を国内外に向けて情報発信すると共に、一貫したコンセプトの下で継続的に利用環境の水準の維持、更なる向上を図る必要があることを踏まえ、以下の観点、考え方に基づき設定。

観点	考え方
1. ルート設定	サイクルツーリズムの推進に資する魅力ある安全なルートが設定されている
2. 走行環境	迷わず安心、安全に走行できる環境が整備されている
3. 受入環境	サイクリストのニーズに対応したサポートが充実している
4. 情報発信	必要な情報が容易に入手可能である
5. 取組体制	質の高いサイクリング環境を維持し、更なる向上を図るための継続的な取り組み体制がある

- 指定要件を評価する評価項目及び評価基準は、ナショナルサイクルルートとして満たすべき評価基準を必須項目として設定し、指定の際にすべて満たしていることを基本とする。
- また、更なるサイクリング環境の向上を目指した取組を促すため、満たしていることが望ましい評価基準を推奨項目として設定する。
- 更なるサイクリング環境向上のため、追加的に対応すべき取組を、指定の条件とすることができるものとする。

3 受入環境



要件	① 多様な交通手段に対応したゲートウェイが整備されていること						
考え方	ゲートウェイは、サイクリングの出発地点となることから、利用者の快適で安心な利用をサポートするための機能が利用可能であるとともに、多様な交通手段に対応できる必要があるため						
評価項目 ◎：必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○：推奨項目 (クリアが望ましい項目)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">評価項目</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;">ゲートウェイの整備</td> <td> ◎ルートに存する域内にある主要アクセスポイント(空港、鉄道駅、道の駅等)に、必要な機能を備えた「ゲートウェイ」が整備されていること。 【必要な機能】 ◎レンタサイクル又はシェアサイクルが利用可能なこと ◎必要な情報(ルートマップ、宿泊施設、サイクルステーション、見所、食事、緊急サポート)が入手可能なこと ◎必要な物品(タイヤチューブ、パーツ、携行食等)が購入可能なこと ◎手荷物用のロッカー、着替えスペースが完備されていること ◎空気入れ等の出発前の準備・調整に必要な工具の貸出があること 【推奨する機能】 ○シャワー等が利用可能なこと ○ゲートウェイにおいて、自転車を組み立てるスペースが屋内(もしくは屋根のある空間)に確保されていること。 ○ゲートウェイまでの自転車の運搬サービス(鉄道・バスなどでの輸送、航空機による輸送のための専用ボックスの提供や保管サービス、自転車託送サービス等)が利用可能であること。 ○ゲートウェイと宿泊施設等間で自転車や荷物の託送サービスが利用可能であること </td> </tr> <tr> <td></td> <td>◎ゲートウェイとルート間のアクセスルートが整備されており、そのアクセス方法もわかりやすく案内されていること。</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	評価基準	ゲートウェイの整備	◎ルートに存する域内にある主要アクセスポイント(空港、鉄道駅、道の駅等)に、必要な機能を備えた「ゲートウェイ」が整備されていること。 【必要な機能】 ◎レンタサイクル又はシェアサイクルが利用可能なこと ◎必要な情報(ルートマップ、宿泊施設、サイクルステーション、見所、食事、緊急サポート)が入手可能なこと ◎必要な物品(タイヤチューブ、パーツ、携行食等)が購入可能なこと ◎手荷物用のロッカー、着替えスペースが完備されていること ◎空気入れ等の出発前の準備・調整に必要な工具の貸出があること 【推奨する機能】 ○シャワー等が利用可能なこと ○ゲートウェイにおいて、自転車を組み立てるスペースが屋内(もしくは屋根のある空間)に確保されていること。 ○ゲートウェイまでの自転車の運搬サービス(鉄道・バスなどでの輸送、航空機による輸送のための専用ボックスの提供や保管サービス、自転車託送サービス等)が利用可能であること。 ○ゲートウェイと宿泊施設等間で自転車や荷物の託送サービスが利用可能であること		◎ゲートウェイとルート間のアクセスルートが整備されており、そのアクセス方法もわかりやすく案内されていること。
	評価項目	評価基準					
ゲートウェイの整備	◎ルートに存する域内にある主要アクセスポイント(空港、鉄道駅、道の駅等)に、必要な機能を備えた「ゲートウェイ」が整備されていること。 【必要な機能】 ◎レンタサイクル又はシェアサイクルが利用可能なこと ◎必要な情報(ルートマップ、宿泊施設、サイクルステーション、見所、食事、緊急サポート)が入手可能なこと ◎必要な物品(タイヤチューブ、パーツ、携行食等)が購入可能なこと ◎手荷物用のロッカー、着替えスペースが完備されていること ◎空気入れ等の出発前の準備・調整に必要な工具の貸出があること 【推奨する機能】 ○シャワー等が利用可能なこと ○ゲートウェイにおいて、自転車を組み立てるスペースが屋内(もしくは屋根のある空間)に確保されていること。 ○ゲートウェイまでの自転車の運搬サービス(鉄道・バスなどでの輸送、航空機による輸送のための専用ボックスの提供や保管サービス、自転車託送サービス等)が利用可能であること。 ○ゲートウェイと宿泊施設等間で自転車や荷物の託送サービスが利用可能であること						
	◎ゲートウェイとルート間のアクセスルートが整備されており、そのアクセス方法もわかりやすく案内されていること。						

3 受入環境



要件	② いつでも休憩できる環境を備えていること	
考え方	ナショナルサイクルルートとして求める規模を勘案すると、一定間隔でサイクリストに必要な機能を有した休憩施設が必要となるため	
評価項目 ◎:必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○:推奨項目 (クリアが望ましい項目)	評価項目	評価基準
	サイクルステーション(休憩施設)の整備	◎サイクリストが必要とする機能を備えたサイクルステーションがルート上に概ね20kmごとに整備されていること。 ただし、河川区域などで困難な場合は、ルートの近くでもやむを得ないものとする。

【必要な機能】

- ◎トイレが利用できること
- ◎空気入れの貸出しをしていること
- ◎水分補給(自動販売機・飲料水の提供)が可能であること
- ◎休憩スペース・設備(屋根付きのテーブル・椅子)があること
- ◎サイクルラックが設置されていること
- ◎必要な情報(ルートマップ、宿泊施設、休憩施設、見所、食事、緊急サポート)が入手可能なこと

【推奨する機能】

- 物品販売(チューブ、携行食、モバイルバッテリー等)がされていること
- 工具等の貸出しをしていること
- wifiの提供をしていること

3 受入環境



要件	③ ルート沿いに自転車を運搬しながら移動可能な環境を備えていること	
考え方	ナショナルサイクルルートとして求める規模を勘案すると、サイクリストのレベルや地形条件に応じて、公共交通による他の代替移動手段が確保されていることが重要であるため	
評価項目 ◎: 必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○: 推奨項目 (クリアが望ましい項目)	評価項目	評価基準
	ルート上の迂回を図るための代替交通手段	○ルート上の迂回(ショートカットや危険箇所・峠道の回避)を図るための移動手段としてサイクルトレイン、サイクルバス、サイクルタクシーなどが設定されていること。
		○上記の手段について、利用者が計画を立てるのに必要な情報が提供されていること。
	自転車回送サービスとしての代替交通手段	○サイクリストの体力や経験・実力による「走行できる距離」を勘案し、拠点までの自転車回送サービスとしてのサイクルトレイン、サイクルバス、サイクルタクシーなどが設定されていること。
	○上記の手段について、利用者が計画を立てるのに必要な情報が提供されていること。	

3 受入環境



要件	④ サイクリストが安心して宿泊可能な環境を備えていること	
考え方	ナショナルサイクルルートは、複数日に跨り宿泊を伴いながら利用できることを想定しているため、サイクリストが利用可能な宿泊施設が必要であるため	
評価項目 ◎: 必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○: 推奨項目 (クリアが望ましい項目)	評価項目	評価基準
	サイクリスト向けの宿泊施設	◎ ルート直近にサイクリストが必要とする機能を備えた宿泊施設が概ね60kmごとにあること。 【必要な機能】 ◎ 室内(フロント、ロビー、客室等)で自転車の預かり・保管が可能であること ◎ フロント等にて荷物の保管が可能であること ◎ 洗濯が可能であること 【推奨する機能】 ○ 自転車など大型荷物を含む宅配の発送、受け取りが可能であること ○ 洗車施設があること ○ 日帰り利用も可能なシャワー設備があること

3 受入環境



要件	⑤ 地域の魅力を満喫でき、地域振興にも寄与する環境を備えていること	
考え方	日本における新たな観光価値を創造する上で、来訪者に地域の魅力を伝え、その魅力により地域振興を図る仕掛けが必要であるため	
評価項目 ◎：必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○：推奨項目 (クリアが望ましい項目)	評価項目	評価基準
	ガイドツアーの実施状況	○サイクリスト向けに地域の魅力を紹介するツアーガイドなどが実施されていること。(日英2か国語以上に対応していること)
	イベントの開催状況	○ルートを活用した幅広い層を対象としたイベント(ツーリングイベントやレース等)が定期的に行われていること。

3 受入環境



要件	⑥ 自転車のトラブルに対応できる環境を備えていること	
考え方	長距離のサイクリングにおいて、トラブルが発生した時に対応できることが必要であるため	
評価項目 ◎：必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○：推奨項目 (クリアが望ましい項目)	評価項目	評価基準
	補修部品・自転車用品販売	○ルート近くにトラブル発生時に必要な補修部品、自転車用品などが販売されていること。
	修理サービス	○ルート近くにトラブル発生時に利用できる自転車修理サービスや自転車の出張修理などのサービスが実施されていること
		○上記のサービスについて、利用者が緊急時に利用するために必要な情報が提供されていること。
	トラブル時の自転車搬送サービス	○トラブル発生時に利用できるメンテナンスのサービス拠点まで、自転車を搬送するサイクルタクシーなどのサービスが利用可能であること。
		○上記のサービスについて、利用者が緊急時に利用するために必要な情報が提供されていること。

3 受入環境



要件	⑦ 緊急時のサポートが得られる環境を備えていること	
考え方	長距離のサイクリングにおいて、緊急時にサポートが得られることが必要であるため	
評価項目 ◎: 必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○: 推奨項目 (クリアが望ましい項目)	評価項目	評価基準
	緊急車両進入路	◎緊急時の事故対応等のため、自転車専用道路等に緊急車両の侵入が可能な環境が整備されていること。または、概ね2kmごとにアクセスが可能な環境が整備されていること。
	緊急時連絡サポート	◎緊急時の連絡体制やサポート可能な施設情報がルートマップ及びホームページなどに記載されており、サイクリストが困らない情報提供がなされていること。
		○緊急通報が可能なように、携帯電話のカバー圏に全線が含まれていること。含まれていない場合には一定間隔で緊急連絡が可能な公衆又は非常電話が存在すること。
	緊急支援物品	○救急箱・担架・AED機器などの緊急支援物品が途中のサイクルステーションに一定間隔以内で整備されていること。

4 情報発信



要件	① 誰もがどこでも容易に情報が得られる環境を備えていること	
考え方	多様なサイクリストがそれぞれのニーズに基づいた必要な情報を容易に確認できることが必要であるため	
評価項目 ◎: 必須項目 (必ずクリアすべき項目) ○: 推奨項目 (クリアが望ましい項目)	評価項目	評価基準
	情報発信	◎ホームページ、SNS及びパンフレットなどで以下のような必要な情報発信をしていること。 <情報の内容> ルートの紹介(写真や動画等)・地域の魅力・文化、地域の拠点・立寄スポット・周辺の観光スポット、ルートの経路・距離・高低差・勾配・路面状況・危険箇所、利用者別等推奨コース、アクセス方法(公共交通アクセス等)、ゲートウェイの場所と機能、サイクルステーションの場所と機能、レンタサイクル・宿泊施設・Wi-Fi利用環境・ルートで利用できるサイクリトレイン等・ガイドツアー・緊急時サービス(自転車修理、医療施設等)・自転車宅配・荷物輸送等サービス情報、マップのダウンロード、GPSデータのダウンロード ◎インバウンドに対応した多言語(日英2か国語以上)で情報発信をしていること。
	ルートマップ	◎以下のような内容が記載されたルートマップが作成されていること。 <記載内容の例> ルートの経路・距離・高低差・勾配・路面状況・危険箇所、利用者別等推奨コース、ゲートウェイの場所と機能、サイクルステーションの場所と機能、地域の拠点・立寄スポット・周辺の観光スポット、ルートの紹介(写真等)、レンタサイクル・宿泊施設・Wi-Fi利用環境・ルートで利用できるサイクリトレイン等・ガイドツアー・緊急時サービス(自転車修理、医療施設等)・自転車宅配・荷物輸送等サービス情報、アクセス方法(公共交通アクセス等)、ホームページ等のURL ◎インバウンドの旅行者でも理解できるものであること。 ○サイクリストが持ち運びやすく、水濡れに強い仕様になっていること。
	ルートマップの入手	◎以下のような場所で容易に入手できること。 <入手場所> 観光案内所、サイクルステーション、複数の交通拠点(道の駅、鉄道駅、空港、フェリーターミナル、バスターミナル等)、宿泊施設 ◎データをホームページ上にアップし、PCまたはスマートフォンで閲覧できるとともに、PDF等でダウンロード可能であること。
	ルートでのPR	○海外の自転車展示会、旅行関係のイベント等に出展し、PRを積極的に実施していること。